



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2025年度 目標発表 (医療部)



NO	種類	発表部署名	ページ
1		病院長	1
2	診療科	呼吸器内科	4
3	診療科	消化器内科/消化器内視鏡室	6
4	診療科	肝臓内科/肝臓疾患センター	8
5	診療科	循環器内科	10
6	診療科	脳神経内科/脳卒中センター	12
7	診療科	血液内科/血液疾患診療センター	14
8	診療科	糖尿病・内分泌内科	16
9	診療科	糖尿病センター	18
10	診療科	腎臓内科/腎センター	20
11	診療科	緩和医療科/緩和ケアセンター	22
12	診療科	小児科	24
13	診療科	外科・消化器外科・血管外科	26
14	診療科	呼吸器外科	28
15	診療科	乳腺外科	30

NO	種類	発表部署名	ページ
16	診療科	整形外科	32
17	診療科	形成外科	34
18	診療科	脳神経外科	36
19	診療科	産婦人科/周産期母子医療センター	38
20	診療科	眼科	40
21	診療科	耳鼻咽喉科	42
22	診療科	泌尿器科	44
23	診療科	皮膚科	46
24	診療科	放射線診断科/画像診断センター	48
25	診療科	放射線治療科/放射線治療センター	50
26	診療科	麻酔科/手術センター	52
27	診療科	病理診断科/病理診断センター	54
28	診療科	リハビリテーション科	56
29	診療科	救急科/救命救急センター	58
30	診療科	歯科口腔外科	60

2025年度目標 病院長



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
4. 経営基盤の更なる強化	強化プラン目標を加味した目標の達成 入院診療データ:稼働率80%以上、在院日数10日 外来診療データ:新規入院患者数1,150人	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	強化プラン目標である入院診療単価86,000円確保 手術料の増収(2023-2024:前年差 -17,426,015円)	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	診療材料購入費の抑制、共同品採用の取組み強化 共同購入品採用率60%以上	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	設備・スタッフなどの医療資源を有効に活用した 病床利用(週末に低下する病床稼働率の是正)	成果時に評価



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度目標値	達成度
一日あたり入院患者数(人) 病床稼働率(%) 延入院患者数(人/月)	368.1 72.9 11,123.6	381.0 76.2 11,587.9	400*以上 80.0*以上 12,600.0**	成果時に評価
2025年度経営強化プラン目標を超える新規入院患者の確保	1,004.7人	1,080.5人	1,150.0人 (1,100人*)	成果時に評価
2025年度経営強化プラン目標に準じる入院診療単価	80,863.9円	82,916.0円	86,000円*	成果時に評価

*:青字 強化プラン目標値
*:延入院患者数+退院数



2025年度の重点目標達成に向けた施策

入院診療単価86,000円確保をめざす

2025年4月 入院診療単価81,241円、前年比-3,160円

2025年4月 手術単価 17,125円、前年比-3,206円

手術単価減少の要因分析が必要であるが、ひとつの可能性として『国内の市場価格が外国価格の1.25倍を上回る場合、価格を引き下げる措置が導入。これにともなって年々償還価格が引き下げられている・・・同じ手術をしても収入が減少する状況を生じる』

外国価格調整の対象となる主な医療材料

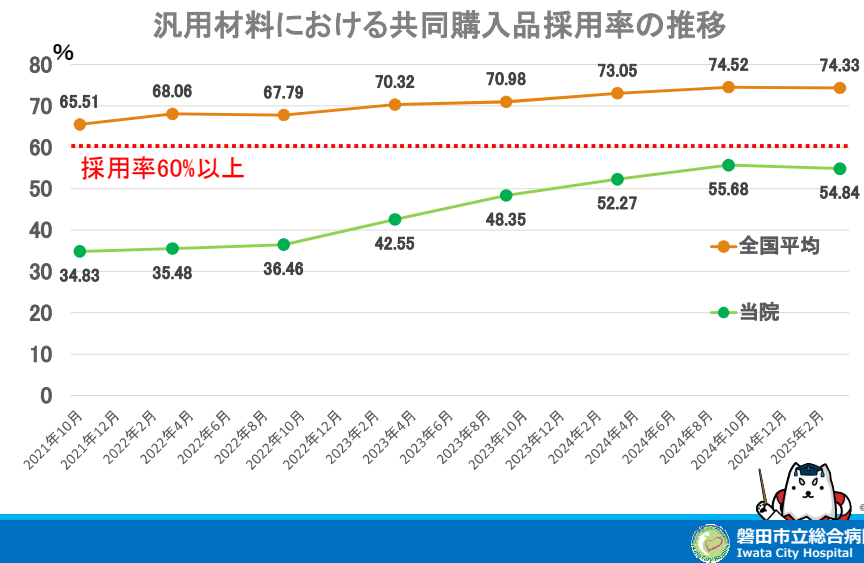
- ・ステント
- ・ペースメーカー
- ・人工関節
- ・血管内治療用デバイス

国産の診療材料の選択
価格交渉や共同購買の推進



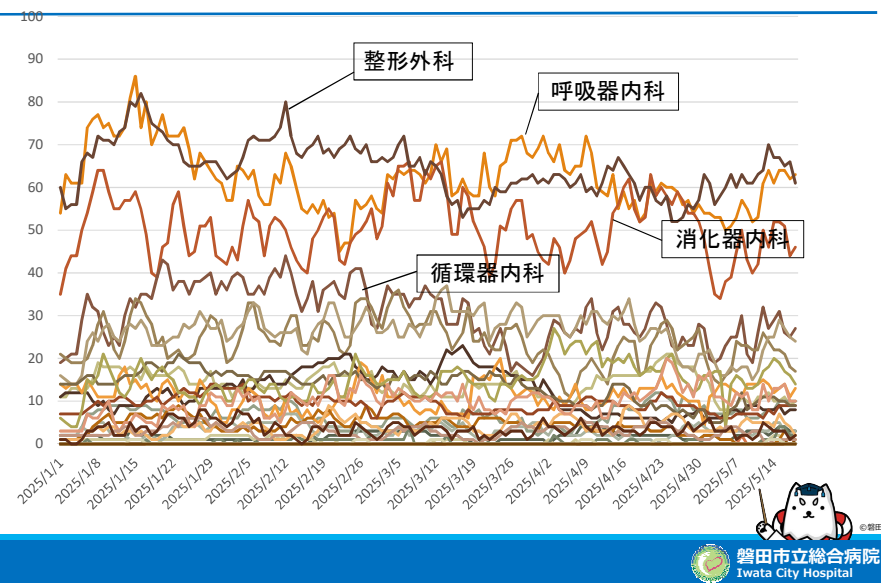
2025年度の重点目標達成に向けた施策

診療材料購入費の抑制と共同品採用の取組み強化



2025年度の重点目標達成に向けた施策

各診療科の1日入院患者数の推移(2025年1月1日～5月18日)



2025年度の重点目標達成に向けた施策

病床利用の平準化 医療資源(設備・スタッフ)の有効活用

	金土日祝 入院患者数	月火水木 入院患者数	比率
呼吸器内科	4113	4490	0.916
整形外科	4604	4307	1.069
消化器内科	3223	3762	0.857
循環器内科	1891	2277	0.830

- ・複数主治医制、休日回診の当番制の導入
働き方改革にもかなう
- ・Ⅱ期日前であっても週末退院を選択・患者の指導
- ・週跨ぎの転院を受容、金曜日以外の日で転院調整
- ・日曜入院の事務的体制の確保

今年度の新たな取組み

- 手術単価の確保
利益率を加味した診療材料の購入
外国価格調整を受けにくい国産の診療材料の採用
- 汎用材料における共同購入品の採用率アップ
- 病床の利用の平準化

決意表明

数値目標達成にむけた職員全員による努力

病床稼働率80%以上

新入院患者1,150人/月

入院診療単価86,000円以上



2025年度目標 呼吸器内科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	94.0	106.6	114.8	成果時に 評価
平均在院日数(日)	15.4	14.6	14.6	成果時に 評価
DPC期間II以内退院率(%)	56.1	56.2	58.0	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	肺癌の診断におけるクライオ生検およびリンパ節腫大に対するリンパ節生検の実施。	成果時に 評価
2. 働き活きと働ける職場環境	効率的な仕事の遂行と業務の均等な分担によるOn-Offのあるワークバランスのある職場環境を構築する。	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	地域連携パスを用いた地域医療との病診連携を通じた医療の構築 医師会への情報発信(地域連携および感染症診療に関する情報提供)	成果時に 評価
4. 経営基盤の更なる強化	新規入院患者数および紹介患者数の増加 DPCII以内退院率の向上	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- 質の高い医療の実現:
癌治療の中核病院として、肺癌の診断時に中枢病変に対してはオーバーシースを用いたクライオ生検、末梢領域に対しては細径気管支鏡とEBUSを組み合わせたクライオ生検を実施。十分な検体量を採取することで、診断率を向上させゲノム診断に基づくオーダーメイド治療の推進を実現させる。
- 働き活きと働ける職場環境:
入院担当患者をその日ごとの入院患者数や重症度、その他の業務内容等を考慮して入院担当順を決定し業務の均等化を図る。夜間・休日については完全待機制を実施しており、毎朝のカンファレンスで前日の入院患者の情報を共有する。日中の勤務の効率化を各自で検証し、診療科として時間外には業務を申し送るなどの連携を強化する。毎月20日の段階で負担の増加が診られる際には業務の分配を図ることで若手医師が働きがいと創造性のある職場環境を実現する。



2025年度の重点目標達成に向けた施策

・ 地域ニーズへの対応：

当院と周辺医療機関との紹介数の増加させるため、当院での呼吸器診療の情報提供や研究会での疾患に関する講演を行ったり、診療科と医療機関にまたがる横断的な疾患について研究会や勉強会を実施する。また、慢性呼吸器疾患に対して高水準の医療を保てるよう当院と共通のツールと治療計画を共有できる複数の地域連携パスを作成し、地域医療連携室を介して相互に紹介しやすい環境を構築させる。

・ 経営基盤の更なる強化：

紹介患者数や新規入院患者数を増加させ、DPC期間Ⅱ以内での退院率を増加させ、定期的に毎朝のカンファレンスで都度確認する。また、各自が簡易ダッシュボードを参考に常に入院数やDPC期間Ⅱ以内達成率について情報を共有する。包括医療の基本的な知識については医事課とも連携して、全員が常に医療経済的にも意識した治療ができるよう毎月全員でカンファレンス時に確認する。



今年度の新たな取り組み

地域連携パスの作成

中東遠地域で唯一、複数の呼吸器専門医が常勤する当院での専門的な検査と地域医療機関での投薬や経過観察を相互に連携して包括的な医療を実現させる。COPD、気管支喘息、間質性肺炎の3疾患について地域連携パスを作成し、専門的な検査による評価を行いながら日々の診療を地域医療機関と連携して相互に協力して治療を行う。

業務負担軽減のための対策強化

当科で以前より行っていた完全待機制のシステムを応用し、科内での業務内容を明確にルール化することで役割分担を明確化させる。日々の受け持ち患者数や予定入院、重症度や日当直等の負担を考慮してスコア化し、翌日の緊急入院担当の順番を決定する。携帯(タブレット)のアプリを用いて予定や情報伝達などを科内で共有を図り、必要に応じて無理のない範囲内で平等に有給を消化しながらon-offのバランスを保てるように調整する。



決意表明

- ① 地域連携を強化し、中東遠地域の唯一の呼吸器診療を行える医療機関としての役割を果たす。
- ② 日々の診療について効率化し質の高い診療を行うことで働きがいのある意欲的な職場環境を実現させる。



2025年度目標 消化器内科 消化器内視鏡室



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	169.7	179.3	190.1	成果時に 評価
平均在院日数(日)	8.7	8.4	9.0	成果時に 評価
下部消化管内視鏡件数	1992	1834	1900	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	ERCPやESDなどの内視鏡治療数の増加	成果時に 評価
2. 生き活きと働ける職場環境	時間外検査の削減	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	近隣医療機関からの治療要請への対応	成果時に 評価
4. 経営基盤の更なる強化	紹介患者数の増加	成果時に 評価



今年度の新たな取組み

○内視鏡治療数の増加

入院日数の適正化を図り、早期退院を目指す。

○時間外検査の削減

検査のプロトコルを見直し、スムーズな検査施行を心がける。

○紹介患者数の増加

○近隣医療機関からの治療要請への対応

コミュニケーションを密に取り合い、信頼される診療体制を構築する。



決意表明

各スタッフの専門性を活かした医療を
提供して参ります！



2025年度目標 肝臓内科 肝臓疾患センター



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
県認定コーディネーター	11	23	25	成果時に評価
肝疾患治療費助成案内件数	29	15	30	成果時に評価
肝疾患相談件数	36	27	40	成果時に評価



2025年度重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	院内の肝炎ウイルスマーカー陽性者の拾い上げの徹底	成果時に評価
2. 生き活きと働ける職場環境	それぞれの職種の専門性を発揮出来るように役割分担を明確にする。	成果時に評価
3. 地域ニーズへの対応	肝疾患に対する制度の周知（患者様及び医療スタッフ）	成果時に評価



2025年度の目標

院内の肝炎ウイルスマーカー陽性者の拾い上げの徹底

主治医 HBs抗原、HCV抗体検査オーダー



検査技師 ウイルスマーカー陽性の場合、主治医にメールで連絡



主治医 消化器内科または肝臓内科に紹介



紹介がない場合、肝疾患医療コーディネーターを通じて、主治医に再度連絡



2025年度の目標

肝疾患に対する制度の周知

- ・B型・C型肝炎治療費の助成
- ・定期検査費用の助成
- ・B型肝炎の給付金
- ・薬害肝炎(C型肝炎)の給付金
- ・肝がん・重度肝硬変の方への支援制度



2025年度の新たな取り組み

- ・肝癌、肝硬変の助成金給付が円滑にいくように
該当者に早めに医事課で説明を聞いていただける
ようにスタッフに周知していく。
- ・肝疾患コーディネーターの増員に伴い、多職種との
連携の見直しをする。



肝臓週間

7月28日は**世界肝炎デー**です。
7月28日を含む1週間は「**肝臓週間**」と
定められています。これに合わせて、
例年、院内でキャンペーンを行ってきました。

- ・SNSによる一般の方への広報
- ・肝炎関連のポスターなどの掲示、チラシなどの配布
- ・無料検査の案内
- ・専門医による無料相談など



決意表明

肝臓病で苦しむ人を一人でも
多く救えるよう努めます。



2025年度目標 循環器内科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	87.3	89.6	96.5	成果時に 評価
平均在院日数(日)	8.3	8.6	8.4	成果時に 評価
ロータブレードPCI件数	3	7	12	成果時に 評価
アブレーション件数	74	64	70	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	カテーテル治療の質の向上と先進治療機器の導入	成果時に 評価
2. 働き活きと働ける職場環境	緊急対応の質を維持しつつ、ライフワークバランスを保てる職場作り	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	高齢化に伴い増加する心不全患者への診療の充実	成果時に 評価
4. 経営基盤の更なる強化	医療機器購入の効率化と費用削減の取り組み	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

1. 質の高い医療の実現

- ・PCI(特にロータブレードなど高度治療)、アブレーション治療件数の維持
- ・先進医療機器の導入
カテーテル検査; 心筋微小循環機能解析ソフト
PCI; ダイヤモンドバック or IVL (石灰化病変治療機器)
アブレーション; パルスフィールドアブレーション

2. 働き活きと働ける職場環境

- ・治療水準を維持しながらの医師働き方改革をさらに推進
- ・多職種間でのタスクシフトの推進
カテーテル(手洗い)業務、RI検査での注射業務など



2025年度の重点目標達成に向けた施策

3. 地域ニーズへの対応

- ・心不全地域連携連絡会の継続
院内多職種連携の強化、病診連携の推進
- ・院内勉強会、地域連携勉強会(医師会と連携)の開催

4. 経営基盤の更なる強化

- ・カテーテル機器共同購入の参加(機器購入費用の削減)



今年度の新たな取り組み

PCI/カテーテルアブレーションにおける先進医療機器の導入による高度治療の拡大

・PCI;
→ダイヤモンドバック or IVL (石灰化病変治療機器)

・カテーテルアブレーション;
→パルスフィールドアブレーション



決意表明

2025年度も多職種で連携してより一層チーム医療の強化をしていきます。

地域中核病院として、更なる医療の質の向上を目指します。



2025年度目標 脳神経内科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
新規入院患者数(人) / 月平均	22.7	26.5	31.0	成果時に 評価
/ 年間	290	331	370	成果時に 評価



2025年度 重点目標の達成状況

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	ガイドラインに沿った診療。ポリファーマシー根絶	成果時に 評価
2. 活き活きと働ける職場環境	働き方改革の推進 残業時間を削減しワークライフバランスを強化	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	初診(紹介患者)の受け入れ制限の解除	成果時に 評価
4. 経営基盤の更なる強化	査定の恐れのある検査、薬剤の制限。	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- 初診(紹介患者)の受入制限の解除による
患者の増加
- ポリファーマシーへの対応
持参薬を飲みきったら中止を検討する
- 働き方改革の推進
業務の必要性を再検討する



今年度の新たな取り組み

初診（紹介患者）の受入制限の解除

脳梗塞の診療に内科系診療科のサポートを得る



決意表明

少数スタッフで持続可能な診療を心がけます



2025年度目標 血液内科 血液疾患センター



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	58.1	67.4	72.6	成果時に評価
年間入院患者数 (実人数/延べ人数)	265/708	288/755	350/870	成果時に評価
自家末梢血幹細胞移植件数	10	5	6	成果時に評価
二重特性抗体薬治療件数	—	3	4	成果時に評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	自家末梢血幹細胞移植を積極的におこない、年間5件以上を維持する。新規治療薬である二重特異性抗体薬を必要とする患者に届ける。	成果時に評価
2. 生き活きと働ける職場環境	血液疾患診療センターによる多職種連携して、タスクシェアシフトをすすめる。チーム血液内科で診療にあたり業務を分担し休暇を取りやすい環境を目指す。	成果時に評価
3. 地域ニーズへの対応	血液疾患やAYA世代のがんについて、市民や学生に教育や公開講座をおこなえる機会を作る。講演会などを通じて病病連携、病診連携をすすめる。	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	入院化学療法において、DPCを意識したクリニカルパスをさらに推進する。	成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- ・血液疾患診療センターの取り組みを発信する
- ・外来化学療法室との連携
- ・自家移植、二重特異性抗体薬治療における多職種連携
- ・AYA世代の診療体制の強化、AYA外来



今年度の新たな取り組み

- ・当院の血液疾患診療＝「中東遠モデル」
：積極的な他職種連携、病病連携、病診連携

さらに血液疾患患者をみていけるようにする。
全国でもトップレベルの診療実績に。



決意表明

中東遠地域唯一の血液内科を標榜している
日本血液学会認定の血液専門研修施設として、当地域の中心的役割を担います。

当院血液内科の試みを発信していきます。



2025年度目標 糖尿病・内分泌内科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	12.2	16.3	18.0	成果時に 評価
平均在院日数(日)	10.8	10.9	10.0	成果時に 評価
指導管理料算定 透析予防管理料(糖尿病) 在宅妊娠糖尿病患者指導管理料2	-	13 -	25 40	成果時に 評価
在宅療養指導料 (インスリン注射患者)	-	-	30 5	
教育入院 外来指導	-	-	-	



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療 の実現	最新の糖尿病薬・肥満治療薬、関連機器につき、速やかな情報収集を行う 新規薬剤を、正しい知識に基づき治療に還元する	成果時に 評価
2. 生き活きと働ける 職場環境	当該分野での積極的な学会論文発表 糖尿病・内分泌代謝科専門医の育成	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの 対応	地域他医療機関、クリニックとの連携 患者さんのニーズに応える 専門的な診療	成果時に 評価
4. 経営基盤の 更なる強化	■在宅妊娠糖尿病患者指導管理料2の算定 ■在宅糖尿病指導料の算定 教育入院インスリン導入患者さんの退院時算定 外来インスリン導入患者さんの算定	成果時に 評価



今年度の新たな取り組み¹

外来での糖尿病 教育・インスリン導入のプログラム作成

社会的な背景などから糖尿病教育入院ができない患者さん
やむをえず外来でインスリンを開始する患者さん について
教育入院をされた時と同じように

- ①糖尿病について知識をつけていただきたい
- ②糖尿病の合併症の検査をおちなく行いたい
- ③血糖コントロールの悪化した原因(特に悪性腫瘍の有無)の検索を行いたい

これまで系統だったプログラムはなかったため、外来糖尿病療養指導士Nsと協力し、
外来における、教育・インスリン導入のプログラムを計画している

糖尿病教育は最初が大事！

入院できない患者さんにも糖尿病教育の機会を！
また外来でも必要な検査がきちんと落ちなくできることも目的にしています。



今年度の新たな取り組み2

妊娠糖尿病患者指導管理料2（産後早期の指導管理）

妊娠糖尿病妊婦（GDM）さんは、産後糖尿病の発症リスクを考慮し、これまで出産度3-4ヶ月に当科に再診、75gOGTT検査を施行、診療をしてきましたが産後の管理料は算定されていませんでした。
また産後の外来受診時に糖尿病に関する療養指導も行われていませんでした。

糖尿病・内分泌内科が介入した
当院の妊娠糖尿病患者
（対象患者さん）

2021	2022	2023	2024
60	42	35	58

妊娠糖尿病患者さん（出産後5年以内の2型糖尿病の発症リスクが高い）の
出産後の糖尿病発症予防を中心とした生活について、適切な指導を行う機
会がもてる。必要な検査とその意義について理解を深めることができる



決意表明



稀少なホルモン疾患から
糖尿病や高血圧などの身近な疾患まで

最新の確かな情報に基づいた
スペシャリストが提供する
患者さん一人ひとりのための医療を実践する



2025年度目標 糖尿病センター



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度目標値	達成度
フットケア外来数	81	205	220	成果時に評価
透析予防管理料算定 腎症重症化予防外来 慢性腎臓病透析予防指導管理料 腎臓内科(慢性腎臓病) 糖尿病・内分泌内科(糖尿病)	4	7 24 13	50	成果時に評価
専門スタッフの育成 フットケア指導士 糖尿病療養指導士 認定看護師(糖尿病看護)		8 3(Ns)/4(薬)/5(栄)/1(検) 1	10 Ns +1	成果時に評価



中期計画等からの重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	糖尿病教育パンフレットの改訂 指導内容のアップデート	成果時に評価
2. 生き活きと働ける職場環境	院内スタッフ向けミニレクチャーの開催 スタッフの資格取得・更新に対するバックアップ 中東遠総合医療センターと協力の療養指導研究会の開催準備	成果時に評価
3. 地域ニーズへの対応	フットケア外来 →地域フットケアクリニック 連携体制の確立	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	①透析予防管理料の算定 ②外来・入院 在宅療養指導料の算定 ③産後在宅療養指導料の算定	成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

経営基盤の更なる強化

- ①透析予防指導管理料の算定
2024年～ 腎臓内科と協力し従来の腎症重症化予防外来（市事業）に加えて
通院患者さんや家族に適切な指導や教育を行なうことで算定
- ②外来・入院 在宅療養指導料の算定
教育入院（インスリン注射患者）の退院前指導
糖尿病外来での インスリン注射患者さんの指導
- ③妊娠糖尿病産後在宅療養指導料の算定
- ④フットケア外来での糖尿病合併症予防管理料の算定

いずれも専門スタッフによる30分以上の個別の指導を行う

指導に従事する スタッフ 特に看護スタッフの育成
資格取得・更新に対するバックアップが必要

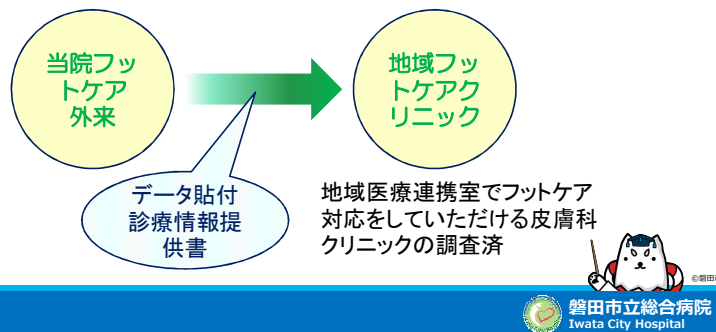


今年度の新たな取り組み

フットケア外来→地域フットケアクリニック連携体制の確立

5東病棟（糖尿病・腎臓病病棟）Ns 外来Nsの 努力により
フットケア外来の充実が達成され、外来開設日や枠が増設されました
この2年間で、ケアをうけられる患者さんの数が飛躍的に増加しました

次は… 患者さんがどこで継続してケアを続けていくか



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

決意表明

スタッフ一人ひとりのスキルアップ

新しいアイデアを出し合える
風通しのよい運営

院内から地域へ
センターの活動を発信



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2025年度目標 腎臓内科 腎センター



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	24.4	28.8	31.0	成果時に 評価
平均在院日数(日)	16.0	15.4	15.0	成果時に 評価
DPCII以内退院率(%)	59.2	66.9	68.0	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	- 血液透析、腹膜透析、腎移植を3本柱としたバランスの良い腎代替療法の提供 - オンラインHDFなどの新規治療方法の継続と拡充	成果時に 評価
2. 生き活きと働ける職場環境	- 医師の働き方改革(働きがい)の推進 - 家庭環境を考慮したワークライフバランス実践	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	- 慢性腎臓病対策の徹底 - 夜間透析を含む透析医療体制の維持 - 災害時における透析医療提供体制の確立	成果時に 評価
4. 経営基盤の更なる強化	- 新規入院患者の獲得 - 腎症重症化予防外来、透析予防外来の拡充	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

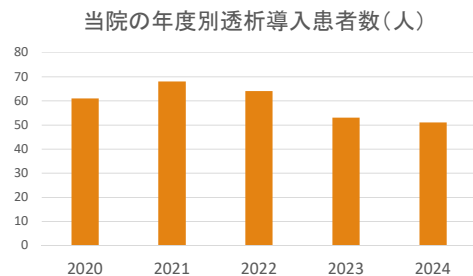
慢性腎臓病対策として

1. 糖尿病性腎症重症化予防外来
2. 慢性腎臓病透析予防外来
3. 糖尿病透析予防外来の拡充



今年度の新たな取り組み

1 透析導入患者数の抑制



2 腎センター運営の維持と効率化



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

決意表明

より質の高い慢性腎臓病対策を実施し
周囲から目標とされる施設となる

透析予防で
透析導入患者さんを減らしたい



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2025年度目標 緩和医療科 緩和ケアセンター



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
年間新入院患者数(人)	34	33	30	成果時に 評価
緩和ケアチーム依頼数(人)	219	293	290	成果時に 評価
緩和治療科外来数(のべ, 人)	460	664	660	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療 の実現	コアメンバー減少に関わらず質の高い緩和ケアの実 現・提供	成果時に 評価
2. 活き活きと働ける 職場環境	入院患者・外来患者との関わり方の見直しでワークラ イフバランスを強化	成果時に 評価
3. 社会ニーズへの 対応	がん教育への協力	成果時に 評価
4. 経営基盤の 維持	緩和医療科入院患者, 緩和ケアチーム介入患者, 緩和 医療科外来患者の維持	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

早期からの緩和ケア

PS0～2の介入割合の維持・増加

66%(2024年度)

抗がん治療前・中の介入割合の維持・増加

71%(2024年度)

意思決定支援

外来からの療養支援



2025年度の重点目標達成に向けた施策

院外との積極的な連携

緩和ケア連携カンファレンス
緩和ケアチーム合同カンファレンス
在支診・在支病カンファレンス

人材育成

世代交代を見据えて発掘・育成



今年度の新たな取り組み

医療用麻薬・鎮静薬の使用法改善

処方セット化
指示テンプレート作成



医療安全の配慮
業務効率化による働き方改革



決意表明

質の高い緩和ケアの提供

早期の症状緩和
意思決定支援
人材育成
地域連携・社会貢献



2025年度目標 小児科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	65.3	88.3	88.1	成果時に 評価
平均在院日数(日)	4.5	4.0	4.5	成果時に 評価
紹介件数(件/月)	53.4	66.6	70	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	救急外来コンサルト症例・救急搬送症例への24時間対応 入院が必要な症例の24時間対応	成果時に 評価
2. 働き活きと働ける職場環境	働き方改革への対応、必要な代償休息時間の確保、宿直明け業務の調整、産休や育児への対応	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	周産期医療を含めた地域中核病院としての小児医療提供体制の維持、関連機関との協力、新生児蘇生法コース開催	成果時に 評価
4. 経営基盤の更なる強化	外来・入院数の維持、専門外来による医療の提供、神経発達症の診療	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- 中東遠医療圏の小児医療の砦
- 働き方改革に対応した宿直体制を維持しながら、業務を効率化することで無理をせず休むことができる環境を整備する
- 近隣の開業医の先生方と顔の見える関係を作り、紹介・逆紹介をしやすくする
- 行政・教育機関等との連携をとり、医療的ケアや虐待の分野での素早い対応を行う
- 近隣の病院・総合周産期センターと常に連携をとり、質の高い医療の提供を行う



今年度の新たな取り組み

COVID-19流行で中断していた重症心身障害児・者のレスパイト入院を、より患者家族のニーズに寄り添った形で再開する



決意表明

行政・教育機関と連携をとることで、病気だから受診する小児科、だけではなく、地域子ども・子育て世代にとって存在する意義のある小児科にしたい

重症症例や稀少疾患が多く大変だが休むことができる
→若手医師にとって浜松医大小児科関連病院の中でも「働きたい小児科」にしていきたい



2025年度目標 外科・消化器外科 血管外科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	外科・消化器外科 74 血管外科 3.3	外科・消化器外科 77 血管外科 2.6	外科・消化器外科 82 血管外科 3	成果時 に評価
平均在院日数(日)	外科・消化器外科 10.2 血管外科 12.2	外科・消化器外科 10.5 血管外科 11.5	外科・消化器外科 10.5 血管外科 11.5	成果時 に評価
単径ヘルニア手術待機期間	3から5か月	3から5か月	2か月以内	成果時 に評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	低侵襲治療(ロボット手術、腹腔鏡手術)の継続	成果時に評価
2. 活き活きと働ける職場環境	休暇の取りやすい負担感の少ない外科を目指す	成果時に評価
3. 地域ニーズへの対応	単径ヘルニア手術の待機期間の削減	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	効率的な入退院管理	成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- ・休暇だけでなく研修や手術見学などの出張を推奨
- ・短期滞在入院を利用して単径ヘルニア手術を積極的に行う
- ・外科病棟師長と協力して効率的な入退院管理を行う



今年度の新たな取り組み

病床を有効に利用し、効率の良い入退院
管理を行う

鼠径ヘルニア手術の待機期間をさらに減らす



決意表明

病棟師長に(入)退院日を決めてもらう

鼠径ヘルニアを2ヶ月以内に手術する



2025年度目標 呼吸器外科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	12.0	15.3	16.5	成果時に 評価
平均在院日数(日)	8.1	7.3	8.5	成果時に 評価
手術件数	116	153	150	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	高度で低侵襲な胸部外科手術の提供 胸部外傷患者に対する適切な治療の提供	成果時に 評価
2. 活き活きと働ける職場環境	チーム医療の充実による負担分配	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	中東遠圏域内の胸部疾患・胸部外傷診療への貢献	成果時に 評価
4. 経営基盤の更なる強化	近隣医療機関との診療連携の拡充	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- 中東遠医療圏で唯一の呼吸器外科
- ロボット支援下手術の安全な適用拡大
- 中東遠圏域4病院をはじめとした
近隣医療機関との連携強化
- 積極的な休暇の取得促進



今年度の新たな取り組み

近隣の呼吸器内科クリニックを
はじめとした近隣医療機関との
顔の見える関係構築と連携強化を
行います



決意表明

スタッフの得意分野を最大限に
活かしながら、
時代の潮流と周囲の状況に即して
変化を続けていきます



2025年度目標 乳腺外科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	11.3	12.3	13.2	成果時に 評価
平均在院日数(日)	8.2	9.6	10	成果時に 評価
乳腺悪性腫瘍に対する根治術 件数	104	142	常勤医-1のため 115	成果時に 評価
マンモトーム(吸引式組織生検) 件数	25	24	30	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成 度
1. 質の高い医療 の実現	整容性の高い手術の提供・薬薬連携と情報共有ツールの利用 (PRO)による効果的薬物治療と薬害防止	成果時 に評価
2. 活き活きと働ける 職場環境	Web会議・情報共有ツールを利用した他職種スタッフとの定期的 カンファレンスと情報共有	成果時 に評価
3. 地域ニーズへの 対応	開業医との共同診療・市民への情報提供による診療時間短縮	成果時 に評価
4. 経営基盤の 更なる強化	アナフィラキシーもしくは過敏反応のriskの高い方・通院 手段の乏しい方に対する入院化学療法実施による入院数増加	成果時 に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

薬物治療の効果・有害事象をLINEや医療用アプリを利用したePRO
(electronic Clinical Outcome)で収集。

学会作成治療関連説明用動画の使用。

乳腺診療に関わるスタッフとのLINEを利用した情報共有。

術後及び骨転移地域連携パスによる開業医との共同診療。

薬薬連携推進(CDK阻害剤)。

吸引式組織針生検による診断精度の向上。

MRIと超音波融合画像ガイド下生検による正確な診断。

乳癌学会総会発表2演題。

超高齢者・心肺機能低下患者に対する積極的局所麻酔下手術。



今年度の新たな取り組み

アナフィラキシーもしくは過敏反応のriskの高い方・通院手段の乏しいに対する入院化学療法実施。

良性腫瘍・乳房膿瘍に対するマンモトームを利用した治療。

LINEや医療用アプリを利用した薬薬連携と開業医との共同診療。



決意表明

持続可能で地域格差のない乳腺診療を行う。

情報共有ツールを用いて重篤な薬害を防止。

経験と知識の次世代医療スタッフへの伝承。



2025年度目標 整形外科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	92.8	101	108.3	成果時に 評価
入院一人当たり単価(円)	77,834	77,497	79,800	成果時に 評価
専門手術(脊椎、関節鏡、人工 関節置換)の実施(件)	262	237	260	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療 の実現	低侵襲手術を含めた専門性の高い手術の実施、スタッフの 専門性を活かした診療	成果時に 評価
2. 経営基盤の 更なる強化	新規入院患者の獲得、病床稼働率を考慮した病床の効率的 な運用、医療スタッフのコスト意識の改善	成果時に 評価
3. 生き活きと働ける 職場環境	働き方改革の推進によるワークライフバランスの強化、ス タッフの診療スキル向上やキャリアアップの推奨	成果時に 評価
4. 地域ニーズへの 対応	低侵襲手術への取り組み、近隣医療機関や市民への情報 発信	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

質の高い医療の実現

- ・専門性の高い手術(脊椎手術、関節鏡下手術、人工関節置換術等)の実施数増加
- ・スタッフの専門性を活かした診療(外来:手外科外来、脊椎外来、骨折予防外来etc.)

経営基盤の更なる強化

- ・新規入院患者数の獲得(近隣医療機関や市民への意欲的な情報発信、救急搬送
患者に対する入院対応など)
- ・コスト意識を考慮した診療材料(縫合糸、整形外科インプラントなど)の積極使用
- ・高騰する医療材料の見直し



2025年度の重点目標達成に向けた施策

活き活きと働ける職場環境

- ・働き方改革の推進によるワークライフバランスの強化(複数主治医制での運用、当直明け勤務の有休取得の徹底)
- ・空いた時間を個人のスキルアップ(他院への手術見学、セミナー参加や資格取得など)に充てる

地域ニーズへの対応

- ・低侵襲手術(コンドリアーゼ椎間板注入、経皮的椎体形成術の実施、脊椎内視鏡手術)の実施・運用準備
- ・近隣医療機関や市民への情報発信(市民講座、地域機関誌を利用、近隣開業医への訪問など)



今年度の新たな取り組み

がん診療連携拠点病院における整形外科の役割の見直し

骨粗鬆症・骨折予防外来(対象:骨粗鬆症、高齢者脆弱性骨折)の拡充

- ↓
- がん骨転移に対する病的骨折の予防・治療も対象に
がん骨転移診療に対する整形外科的介入への取り組み
- ・がん診療連携拠点病院への参加
 - ・定期的な外来フォロー
 - ・整形外科スタッフの意識改革・教育

診療材料のコスト削減に対する取り組み

共同購入品の積極採用



決意表明

質の高い医療と病院収益改善を両立させた
取り組みを目指します。



2025年度目標 形成外科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)*	15.2	15.1	16.3	成果時に 評価
DPC期間II以内退院率(%) *	70.6	64.8	70.0	成果時に 評価
平均在院日数(日)	13.5	17.4	14.0	成果時に 評価
手術件数(1ー12月)	1416	1210	1000	成果時に 評価

* 簡易ダッシュボードより (医師4名) (医師4名) (医師3名)



2025年度 重点目標

項目	目標	Effort	達成度
1. 経営基盤の 更なる強化	新規入院患者の獲得	30%	成果時に 評価
	手術件数の維持	30%	成果時に 評価
2. 入院期間の 短縮	DPC期間 II以内退院率の向上	20%	成果時に 評価
3. 質の高い医療 の実現	皮膚腫瘍外科診療のレベルアップ	20%	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

(1)手術件数の維持

今年度は医師4人体制から当面3名に減少する。地域施設からのコンスタントなご紹介に対応するため、スタッフの労働時間に配慮しつつ、手術件数を維持する

(2)DPC期間II以内退院率の向上

虚血肢・糖尿病足壊疽・褥瘡感染等は転院待ちで入院期間が延びることが多い

入院当日に退院後の行き先希望を確認、PFMの面談を組む



今年度の新たな取り組み

(1) 皮膚腫瘍外科診療のレベルアップ

周到的な術前評価(ダーモスコピー、超音波検査、病理組織学的検査)に基づいた確実な腫瘍切除を行う

(2) CLTI(包括的高度慢性下肢虚血)の治療アルゴリズムの向上

関連診療科のご協力のもと、デブリードマン・陰圧閉鎖療法(形成外科)、血行再建(血管外科)、血液浄化療法(腎臓内科)等のタイミングを逸せず効率的な治療を行う



決意表明

(1) 若手医師の育成

(2) 診療レベルアップ

(3) 手術件数の維持



2025年度目標 脳神経外科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	25.3	28.0	29.2	成果時に 評価
DPC期間Ⅱ以内退院率(%)	73.6	69.6	70	成果時に 評価
主要手術件数	160	162	160	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療 の実現	質の高い手術の提供 質の高い診療の提供	成果時に 評価
2. 地域ニーズへの 対応	近隣医療機関や施設との連携強化	成果時に 評価
3. 職場環境待遇の 改善	風通しの良い職場環境 コメディカルとの連携 人員補充 就労環境・条件の改善	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

専門的知識・技術を活かした質の高い医療の提供

DPC入院期間Ⅱを意識した退院調整

限られた人的資源下での効率の良い業務遂行

地域のニーズに合わせた受け入れ
(頭痛、認知症等)



今年度の新たな取り組み

DPC入院期間Ⅱを意識した退院調整

患者状態や患者都合によらないDPCを意識した入院期間

限られた人的資源下での効率の良い業務遂行

救急に頼らない手術症例の収集

腫瘍、機能手術等

新たな人材の確保 効率の良い人員配置

医局、病院に要請

継続可能な体勢作り



決意表明

専門的・最新の医療の提供

限られた人的資源下での効率の良い業務遂行

地域のニーズに合わせた受け入れ (頭痛、認知症等)

DPC入院期間Ⅱを意識した退院調整

研鑽環境、就労環境の改善



2025年度目標 産婦人科 周産期母子医療センター



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	質の高い手術・医療の提供	成果時に評価
2. 生き活きと働ける職場環境	スタッフ数の確保、有給休暇消化率の増加	成果時に評価
3. 地域ニーズへの対応	周産期医療提供体制の維持	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	手術件数・分娩数の維持	成果時に評価



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	79.7	73.3	80	成果時に評価
平均在院日数(日)	6.5	7.0	7.0	成果時に評価
分娩件数	406	390	384	成果時に評価
ハイリスク分娩管理加算数(のべ)	424	539	540	成果時に評価
鏡視下手術件数	159	160	160	成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

1. 質の高い手術・医療の提供
 - 鏡視下手術・ロボット支援下手術の維持
 - 安全を確保した上での手術時間の短縮
 - Enhanced Recovery After Surgery (ERAS)の実践術後回復強化プログラム
2. 医師スタッフ数の確保
 - 大学医局との連携維持
 - 大学非常勤医師の確保
 - 有給休暇消化率の増加



2025年度の重点目標達成に向けた施策

3. 周産期医療提供体制の維持

- 国の政策動向注視
- ハイリスク妊娠・ハイリスク分娩・新生児等の受け入れ維持
- 中東遠圏域周産期医療機能調整会議の内容検討および実施
- 産科医師のモチベーション維持



2025年度の重点目標達成に向けた施策

4. 分娩数の維持

- 国の政策動向注視、分娩費の設定
- 付加価値のある分娩の増加
 - 無痛分娩・非侵襲性出生前遺伝学検査(NIPT)促進
- 産後食(週3回お祝い膳)継続
- 入院中の患者コミュニケーションの促進
- 産科外来の超音波画像の提供(2022年より購入請求)



今年度の新たな取り組み

無痛分娩の対応拡大の取り組み

鏡視下手術の待機期間の短縮

Enhanced Recovery After Surgery (ERAS)

- 術後回復強化プログラム

女性骨盤機能センターの開始

Instagramの開設



決意表明

中東遠地域の中核病院として地域のニーズに応える手術を施行します。

中東遠地域唯一の地域周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠・ハイリスク分娩・新生児の受入を維持していきたいと思いをします。



2025年度目標 眼科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	11.2	6.2	20	成果時に 評価
月平均新規患者数	27.5	32.6	48	成果時に 評価
月平均患者数	396.1	279.7	300	成果時に 評価
月平均手術件数	52.8	48.8	50	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	白内障手術、硝子体手術等における低侵襲治療	成果時に 評価
2. 生き生きと働ける職場環境	疾患、治療内容の共有をおこなう	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	緊急症例の受け入れ強化	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

白内障手術において、日帰り手術や短期入院手術を行い、患者のニーズに対応する

眼科領域の疾患、治療に対するスタッフの理解を深め、より適切な医療を行う



2025年度の重点目標達成に向けた施策

白内障難症例手術、硝子体手術、緑内障手術等の受け入れの強化

常勤医師2名体制により、緊急症例をはじめとする新規症例の受け入れの強化



今年度の新たな取り組み

加齢黄斑変性症や糖尿病網膜症、静脈閉塞症への抗VEGF薬加療について、新規の薬剤を導入し、広い治療選択肢を提供していく

局所麻酔での加療困難な患者に対し、全身麻酔下での加療も選択肢とする



決意表明

眼科領域の疾患に対し適切な医療を行えるよう、地域の医療機関様とも協力しつつ、取り組んで参ります



2025年度目標 耳鼻咽喉科



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	業務効率化で生じた余剰時間で研鑽を行なう。臨床課題のリサーチを効率化。患者説明の質向上	成果時に評価
2. 生き活きと働ける職場環境	業務効率化・省力化で生じた余剰時間で休憩時間・インターバルを確保し、ワークライフバランスを強化	成果時に評価
3. 地域ニーズへの対応	病診連携の強化	成果時に評価



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	26.8	27.8	29.9	成果時に評価
DPC期間Ⅱ以内退院率(%) ※簡易ダッシュボードより	84.2	77.7	85	成果時に評価
手術実績件数	377	380	420	成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- 生成AIを活用した情報収集・研鑽
- 生成AIを活用した、質の高い患者説明文書の充実、多言語対応
- 鼓室形成術や汎副鼻腔内視鏡手術などを積極的行なう



今年度の新たな取り組み

金曜日午前の新たな手術枠を活用して
手術待ち患者の調整を進める

生成AIを安全に活用する人材を増やして
いく



決意表明

安全で丁寧な診療を提供していきます

業務の効率化・省力化を更に進めます

クリニックで対処困難な症例の受け入れ
およびクリニックで対処可能になった症例の
逆紹介など病診連携を進めていきます



2025年度目標 泌尿器科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人) ※簡易ダッシュボードより	49.5	52.1	56.1	成果時に 評価
DPC期間Ⅱ 以内退院率(%) ※簡易ダッシュボードより	66.6	71.1	72	成果時に 評価
手術件数	386	448	460	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	低侵襲治療(腹腔鏡・ロボット手術)の提供	成果時に 評価
2. 働き活きと働ける職場環境	働き方改革の推進による残業時間の削減、 年休消化率の向上	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	地域住民への情報発信、周辺医療機関との連携強化 女性骨盤機能センター新設による女性泌尿器科領域の拡充	成果時に 評価
4. 経営基盤の更なる強化	新規医療技術の導入	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

①ロボット前立腺手術件数の維持

目標： 年間30件以上

②ロボット腎悪性腫瘍手術の新規導入

目標： 初年度は年間5件以上

(超音波エコープローベ購入による件数増加を期待)



今年度の新たな取り組み

①ロボット腎悪性腫瘍手術の新規導入

(2025年4月 施設基準取得済)

②女性泌尿器科関連手術の新規導入

- ・膀胱水圧拡張術(2025年4月 施設基準取得済)
- ・ボツリヌストキシン膀胱壁内注入
- ・尿失禁防止手術(TVT)



決意表明

低侵襲手術(ロボット手術・腹腔鏡手術)
の実績を伸ばし、地域医療に貢献する。

女性泌尿器科領域の拡充を目指し、
地域医療に必要とされる診療を実践
していく。



2025年度目標 皮膚科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	12.1	11.1	12.0	成果時に 評価
平均在院日数(日)	9.8	10.1	10.0	成果時に 評価
平均外来患者数(人/日)	35.7	32.9	34.0	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	新人指導を進め、診療レベルの底上げを図る	成果時に 評価
2. 生き活きと働ける職場環境	残業時間の短縮	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	一般市民への皮膚科的知識の啓蒙と、開業医との連携の強化	成果時に 評価
4. 経営基盤の更なる強化	外来患者数の増加	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

○近隣クリニックとの勉強会の継続

・昨年より、当院への紹介患者を中心としたweb勉強会・情報交換会を毎月開催している。患者紹介促進につながると考え、積極的に実施していく。

○新人への指導、カンファレンスの実施

○重症薬疹診療拠点病院としての薬疹研究、治療の継続

○引き続き、リンパ浮腫外来認知度の向上



今年度の新たな取り組み

他大学、多施設との共同研究、共同診療（遺伝子検査含め）を推進し、当科で診断および治療可能な疾患幅の拡充を図る。



決意表明

科の診療スキルの更なる向上により、地域の中核病院として十分な役割を果たし、信頼を持って受診していただける科になるよう、尽力します。



2025年度目標 放射線診断科 画像診断センター



2024年度(4月－3月)の成果

	検査件数	読影件数	読影率
CT	30296	26092	86.1%
MR	8608	7829	91.0%
核医学	833	719	86.3%
計	39737	34640	87.2%

専門医による画像診断により病院経営に貢献
加算1より約4500万円以上の増収



2025年度の目標

画像診断管理加算3の維持

画像診断を専ら担当する常勤の医師(放射線診断専門医)3名以上が翌診療日までにCT/MR/核医学検査の8割以上を読影して主治医に文書で報告した場合235点(加算1は70点、加算2は175点、加算4は340点)



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度目標値	達成度
読影率	87.4%	87.1%	8割以上	成果時に評価
読影件数	33,255	34,640	34,000以上	成果時に評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	安全、迅速な画像検査、読影、血管造影検査治療の実施	成果時に評価
2. 活き活きと働ける職場環境	常勤医、非常勤医の確保	成果時に評価
3. 地域ニーズへの対応	診療所依頼の画像検査読影の維持	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	画像診断管理加算3の維持	成果時に評価



今年度の新たな取り組み

常勤医（放射線診断専門医、IVR専門医）の獲得

浜松医大との連携強化



決意表明

画像診断管理加算3の継続

常勤医の高齢化に対し、
新たな常勤医の獲得、
非常勤医の確保。



2025年度目標 放射線治療科 放射線治療センター



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
新規放射線治療患者数	300	329	340	成果時に 評価
IMRT実人数	135	162	≥160	成果時に 評価
定位放射線治療実人数	52	43	≥50	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療 の実現	高精度放射線治療の積極的活用 小線源治療や内用療法など特色ある治療の推進	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの 対応	緩和的放射線治療地域連携モデルの活用	成果時に 評価
4. 経営基盤の 更なる強化	定位放射線治療の推進 緩和的放射線治療の利用拡大	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

高精度放射線治療の積極的活用

- ・病変への確実な線量投与、リスク臓器への線量を減らし副作用を起こさない
- ・骨転移に対する定位放射線治療について当科としての方針を決定し、導入を進める

小線源治療や内用療法など特色ある治療の推進

- ・前立腺癌密封小線源治療のスキルアップ
- ・ルテチウム内用療法の需要に応じた施行



2025年度の重点目標達成に向けた施策

緩和的放射線治療の利用拡大

- ・疼痛緩和目的での治療において単回照射を活用し利用拡大を図る
- ・IMRTを活用し、副作用の低減を図る
- ・近隣の病院や在宅医療クリニックとの連携を推進



今年度の新たな取り組み

装置の老朽化に伴う継続治療体制の強化

- ・治療がストップした際のダメージを最小限にする準備
- ・職種間コミュニケーションを充実させ、治療方針を共有

骨転移に対する定位放射線治療の導入

- ・当科としての方針・治療方法を検討し、良い適応となる症例に導入する



決意表明

ひとりひとりの患者さんに適した放射線
治療を丁寧に行います

放射線治療センターが一丸となって、
目標達成を目指します



2025年度目標 麻酔科 手術センター



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値
手術件数(件)	5,107	5,266	5,300
全身麻酔件数(件)	2,365	2,451	2,500
緊急全身麻酔件数(件)	364	389	380



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	高度で安全・良質な周術期医療の提供 緊急時の対応の強化 勉強会の充実・シミュレーションの開催	成果時に評価
2. 活き活きと働ける職場環境	日中のオペ室稼働率の上昇 新人Ns・CEの継続的配属と育成の継続 針刺し件数の減少(感染症検査の施行割合の上昇) 休憩室の改善(改装予定)	成果時に評価



2025年度 重点目標の達成状況

項目	目標	達成度
3. 地域ニーズへの対応	緊急手術への迅速な対応 手術件数増加への対応 外来手術件数・短期滞在手術件数増加への対応	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	急性期充実体制加算の取得の継続 他部門(放射線科・産科病棟)との連携・共働の強化 効率的な手術室運営の推進 → 全てのスタッフが、いろんな手術/状況に対応できる → SPD・サブライセンサー等と連携しタスクシフト	成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

術後疼痛ラウンド

火曜～金曜

体位のマニュアル作成

いろんな手術/状況にみんな対応

外回りの人員の見直し

3F手術室、術前/術後診察



今年度の新たな取り組み

3Fオペ室の運用

手術室数 9 → 10室に

手術枠 78枠 → 80枠
麻酔科管理枠 55枠 → 59枠

一歩進んだ術前診察

術前センター/プレハビリテーション



決意表明

質の高い医療の実現

各スタッフの力の底上げ

手術件数のさらなる増加への対応



2025年度目標 病理診断科 病理診断センター



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
病理診断結果確認率	92.3%	95%	97%	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療 の実現	●病理医の診断能力に関して、日本病理精度保証機構により高い評価(認定)を受ける ●標本管理能力について、日本病理精度保証機構により認定を受ける ●職員(特に専攻医)の確保 ●他科・研修医のサポート体制強化:症例検討会、論文、学会発表への参画	成果時に 評価
2. 活き活きと働ける 職場環境	●業務効率化:残業時間の削減、有給休暇の取得推進、能力に応じた仕事の割り振り(働き方改革)	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

1. 日本病理精度保証機構のフォトサーベイ
試験を受審する
2. がん遺伝子パネル検査における質の担保
を目的に、日本病理精度保証機構により、
パラフィンブロック品質チェックを受ける



今年度の新たな取り組み

専門医試験受験資格取得を踏まえた
専攻医の教育



決意表明

日本病理精度保証機構による認定を受ける



2025年度目標 リハビリテーション科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標	達成度
嚥下造影検査件数	164	147	150	成果時に評価
嚥下内視鏡検査数	88	60	70	成果時に評価
目標単位数(PT+OT)	16.7	15.8	16.0	成果時に評価
学会発表演題数(医師+療法士)	0+6	5+16	2+8	成果時に評価
総合実施計画書不備割合(%)	11.8%	9.9%	8.0%	成果時に評価
早期リハビリテーション加算	94.3%	98.8%	98.0%	成果時に評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	全身管理、統合的な評価を包括的に解釈した上でゴール設定を行い、リハビリテーション治療を提供する。	成果時に評価
2. 生き活きと働ける職場環境	リハビリテーション現場の活力ある意見を吸い出して、実現させていくこと。	成果時に評価
3. 地域ニーズへの対応	訪問看護、訪問リハ、他院リハスタッフ、役所福祉課と協働して、医療難民、リハ難民を救い出すシステムの構築。	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	単位数の増加。加算損失機会の減少。	成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- ・医師、看護師に向けたリハビリテーション教育の継続。
(マニュアルの作成し、適宜マニュアルの参照を促す(新年度毎)
※「そもそもリハビリテーションとは何か？」
PTとは？OTとは？STとは？
- ・専門外来の広報。
(高次脳機能障害、痙性、嚥下障害、慢性疼痛、義肢装具、小児、心臓リハ、呼吸リハ、透析リハなど。※様々な科で対応が難しく、対応に困る際には当科にご相談いただいても良いです。)
- ・訪問看護、訪問リハ、地域包括などの患者を取り巻く院外スタッフと相互コミュニケーションが可能なシステムの立案



今年度の新たな取り組み

啓発、マニュアル化

当院、当地域でのリハビリテーションの理解の浸透（医師、看護師、地域スタッフに対して）

「そもそもリハビリテーションとは何か？」

PTとは？ OTとは？ STとは？

※OTは基本的には当科で処方

☆意図のない、必要性の低いリハビリテーション依頼の中止

- ・リハの必要性がより高い患者に複数単位介入できるようになる。
- ・療法士の移動、カルテ記載の時間を減らすことができる。
- ・就業時間内により効率的に単位を取得できるようになる。



決意表明

療法士、病棟スタッフ、医師、磐田地域や静岡県西部地域のスタッフ、磐田市役所と共に

診療報酬改定に対応し、より**早期**に、より**適切**に、より**質の高い**リハビリテーションを提供できる体制を構築します。

ADL・QOL向上に寄与し、地域とも**実のある**連携をして、円滑な早期退院・転院に貢献します。（※地域、回復期への丸投げを防止する。）

中東遠圏域のリーダーとして、中東遠地域全体のリハビリテーションが円滑に回るよう、様々な職種同士が対話可能なシステムを構築します。



市民、職員の幸せな生き方を守る

やりがいのある組織

職種の枠を超えて対話を持って連携する

収益を出して病院の経営に貢献する



2025年度目標 救急科 救命救急センター



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
救急外来受診数	14679件	15675件	15800件	成果時に 評価
救急車搬送患者数	5761件	6292件	6300件	成果時に 評価
応需率	92%	95%	98%	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療 の実現	浜松医科大学との協力による 研修医教育体制の改革	成果時に 評価
2. 活き活きと働ける 職場環境	院内救命士の増員による 救急外来の診療体制の強化	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの 対応	能登半島地震を踏まえた災害対応体制の見直し	成果時に 評価
4. 経営基盤の 更なる強化	救急外来患者の増加に伴う 診療報酬収入の増加と経営貢献	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

救急外来の要である研修医教育の充実

浜松医科大学救急災害医学講座と協力して、
県内医療機関の救急の第一線で活躍する
医師からのレクチャーを受けられるようにする。



今年度の新たな取り組み

年間4～6回程度、第一線で活躍する救急医による
レクチャーの講義を実施
以下、想定の内容です。

- ・浜松医科大学 救急災害医療講座 教授 渥美生弘先生
『救急現場における脳神経外科のアプローチ』(仮)
- ・浜松医科大学 救急災害医療講座 助教 高橋善明先生
『災害時医療とトリアージの実際』(仮)
- ・聖隷浜松病院 外傷救急外科部長 伊良部真一郎先生
『トラウマコードと外傷外科の取り組み』(仮)



決意表明

救急医一人ですが、病院全体で救急外来に
協力していただき、日々感謝しております。

各科、各部署の負担が軽減が地域の医療の
質の向上に繋がると考え、日々精進してい
きたいと考えています。

今年もよろしくお願い致します。



2025年度目標 歯科口腔外科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均新規入院患者数(人)	42.3	41.0	44.2	成果時に評価
紹介患者数	1816	1759	1800	成果時に評価
平均在院日数(日)	4.0	3.2	3.5	成果時に評価



2025年度の重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	DX化による質の高い手術・治療の提供	成果時に評価
2. 生き生きと働ける職場環境	業務の効率化・省力化によるストレスの軽減、残業時間減少	成果時に評価
3. 地域ニーズへの対応	地域診療所とのコミュニケーションの強化	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	令和6年度診療報酬改定への対応 平均在院日数にはこだわらず病床稼働率の上昇を図る	成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- ・口腔内スキャナーやシミュレーションソフトの活用により手術時間の短縮を図り、再現性の高い手術・治療を実施する。
- ・顔が見える関係を構築するため地域歯科医師会への積極的な参加に努める。
- ・保険診療への理解を高めるために、講演会・セミナーへの積極的な参加。



今年度の新たな取り組み

7月から金曜日の午後に手術室の全身麻酔枠が増設されたので、手術室および病床稼働率の向上を目指す。

・学会の指定研修施設認定数を増やす。



決意表明

- ・初診までの待機期間を短縮。
- ・安全で質の高い医療の提供。



患者満足度の向上を目指す。

